

第 30 回地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会 欠席委員の意見

<平成 27 事業年度評価についてのコメント>

○第 2-2-(2) 働きやすい環境の整備

- ・ワーク・ライフ・バランスへの取り組みとして、単に、労働条件だけではなく、働き甲斐という観点を重視すべきであると思う。従業員の満足度が高まれば、顧客満足度の向上につながる。

○第 3-1-(1) 安定的な経常収支及び資金収支の維持

- ・経営改善の取り組みも評価し、「3 順調に進捗している」で異論はない。
- ・昨年度は人件費比率が上がっていることを指摘したが、人件費比率に加え、本年度の決算では材料費比率が上がっており、結果として収益が悪化している。一方、収益については、高稼働率、高単価となっており、今後稼働率や単価の向上には限界があると考えます。収支の改善には人件費や材料費といったベースとなる費用の削減が必要であり、特に材料は単価や目的の違いに応じ調達から使用までの一貫した取り組みによるコストマネジメントが必要である。
- ・単なる経常黒字であるということよりも、経営改善に関する努力をしていることを評価すべきであると考えており、「3 順調に進捗している」で問題ないと思う。

○第 3-2-(1) 質の高い経営体制の維持

- ・赤字決算となったが、赤字傾向であったことは期中で把握していたはずである。経営改善のために期中で、それぞれの診療科の状況を把握し、病院全体で P D C A サイクルにより対策を検討、実行、検証する必要がある。両病院において、どの時期に問題として認識し、期中にどのような対策・対応を取り、どのような成果があったのか。

○第 3-2-(2) 計画的な投資の実施

- ・ダヴィンチや T A V I などの高額医療機器の導入等による投資効果をはっきりとさせるべきではないかと思う。直接投資額だけでなく、運営コスト等も含めたトータルとしてのコストパフォーマンスをフォローしていく必要があるのではないかと思う。